

大会名称: 第61回国民体育大会(のじぎく兵庫国体)

バスケットボール競技

開催場所: グリーンアリーナ神戸 Mコート

試合区分: No. 315 少年男子 決勝

期 日: 2006(H18)年10月4日(水)

主審: 岸田 吉明

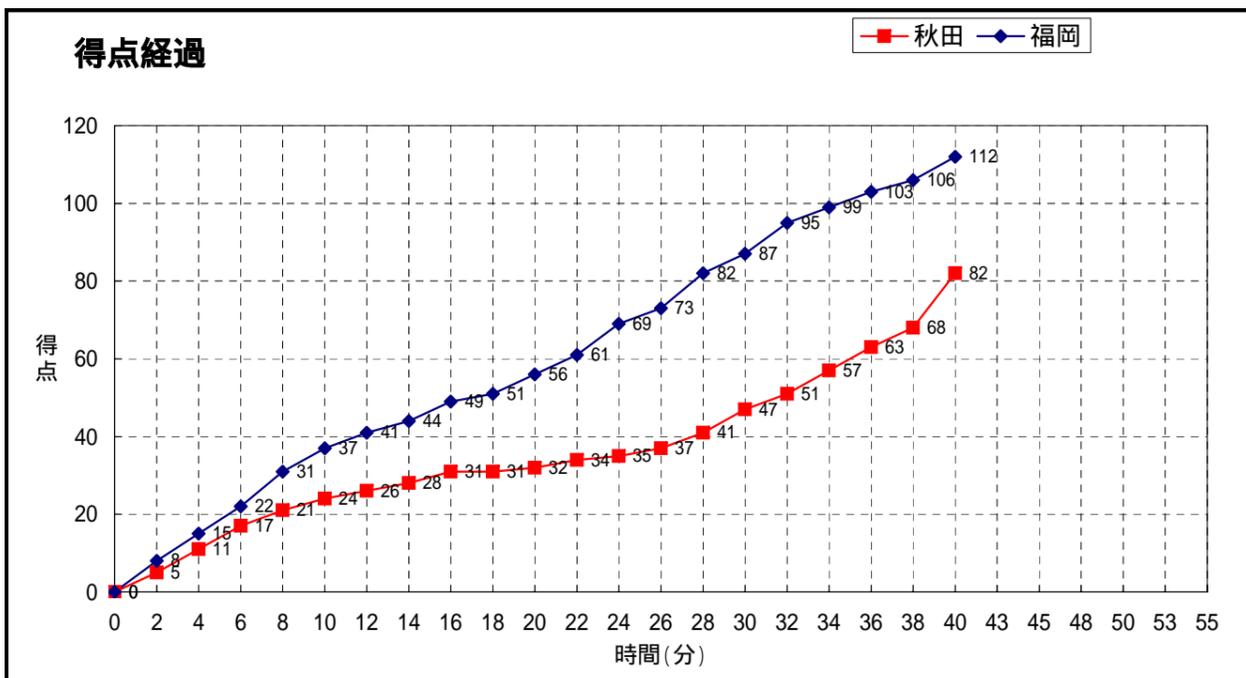
開始時間: 13:50

副審: 小澤 勤

終了時間: 15:13

福岡						秋田									
112						82									
九州						東北									
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4		見儀 雅之	10	1	2	3	4	4	*	下山 竜良	11	0	5	1	4
5	*	橋本 竜馬	22	4	5	0	5	5	*	満原 優樹	16	0	5	6	1
6		本村 遼介	2	0	1	0	0	6	*	長谷川 技	17	0	5	7	1
7		田中 大輔	2	0	1	0	1	7	*	渡部 敬祐	8	2	1	0	3
8	*	酒井 祐典	21	2	6	3	2	8	*	西山 達哉	24	3	4	7	4
9	*	金丸 晃輔	17	1	7	0	1	9		高橋 健太郎	2	0	1	0	1
10		姚 天翼	5	0	1	3	3	10		遠藤 悠亮	0	0	0	0	0
11		久保田 遼	10	0	5	0	0	11		石川 朝	-	-	-	-	-
12		山口 堯彰	4	0	2	0	1	12		宮川 光	4	0	1	2	0
13	*	熊 吉	6	0	2	2	4	13		高橋 陽	-	-	-	-	-
14	*	並里 成	11	1	4	0	1	14		館山 健太	0	0	0	0	2
15		早川 ジミー	2	0	1	0	1	15		熊谷 健	-	-	-	-	-
コーチ		井手口 孝						コーチ		加藤 三彦					
合計			112	9	37	11	23	合計			82	5	22	23	16

S: スターター PTS: ポイント 3P: 3ポイントシュート 2P: 2ポイントシュート FT: フリースロー F: ファール



ゲームレポート

第1ピリオド、福岡はハーフコートマンツーマンディフェンス、秋田は相手のオフェンスに臨機応変に変化していくハーフのゾーンディフェンスでスタート。福岡は#14並里を中心に、早い展開の中からシュートチャンスを作り、#9金丸が昨日に引き続き確実にジャンプシュートを決める。秋田は、#5満原がインサイドの1on1や外からのシュートで得点していく。しかし、残り3分福岡は#5橋本が連続シュートを決めると一気に流れをつかみ、#4見儀の速攻などで、福岡が37-24と13点リードで第2ピリオドへ。

第2ピリオド、福岡は第1ピリオドと同様、秋田#8西山に対して#4見儀、#5橋本がフェイスディフェンスで頑張り、秋田のリズムを狂わせる。また、オフェンスでは、パスをしっかり回し、外からのシュートを確実に決めていく。秋田は、いつもの早い展開からのシュートをなかなか打たせてもらえず、リズムを作れないまま56-32と福岡が24点リードして前半を終了する。

第3ピリオド、前半の流れは変わらず、福岡は#5橋本が絶妙なタイミングでのカッティングからのシュートや、#9金丸の速攻などで確実にリードを広げていく。秋田は、#4下山が福岡#8酒井との1on1を試みるが高さを武器とするディフェンスに対しシュートを決めることができず、秋田#5満原の1on1に頼らざるを得ない苦戦を強いられる。87-47と福岡が更にリードを広げ第3ピリオドを終えた。

第4ピリオド、福岡は#14並里がこの試合安定したゲームコントロールをし、#8酒井、#11久保田、#12山口もおもしろいように得点していく。秋田は、前からプレッシャーをかけ、相手のミスを誘いボールを奪い取るが、その後のシュートがいつものように決まらない。秋田は最後までゲームを諦めず必死に戦うが、この試合40分間集中したディフェンスと安定したシュート力など、総合力で優る福岡が最後まで攻撃の手を緩めず、112-82で秋田を下し、3年ぶり8回目の優勝を果たした。

担当者: 初谷 洋志(兵庫県バスケットボール協会)

(財)日本体育協会・(財)日本バスケットボール協会